樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

2018. 1. 25
第７９号
ひづめ館懇話会

事務局　〒028-3310 紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 Tel 019-676-3999　会長 高橋敬明 Tel 090-3125-3776

―岩手県立博物館テーマ展『比爪―もう一つの平泉―』パンフレット14頁―

３ 比爪―奥州藤原氏第二の拠点― ③ 外縁遺跡

≪柳田館新山経塚(紫波町片寄字中平)(1)≫

柳田館遺跡は「新山」の南東麓に位置します。昭和50年に東北縦貫自動車道建設に伴い、館の東半部の発掘調査がおこなわれました。柳田館は15～16世紀を中心としています。そして、その他に12世紀前半代の銅鏡も出土しています。銅鏡は調査範囲の南西部付近の「Ⅲ－15削平地」で出土しています。報告書には詳しい出土状況は記されていませんが、塚や、墓穴から出土したものではなく、造成された平場を覆う土の中から出土したもののようです。

≪≪≪　２月～３月行事予定のお知らせ　≫≫≫

２月２１日 （水曜日）	第89回 月例発表会	午後７時から午後９時まで 発表者 ： 高 橋 敬 明 テーマ ： 鎌倉時代の紫波 3 発表者 ： 宮　　良 男 テーマ ： 日本の仏教
３月２１日 （水曜日）	第90回 月例発表会	午後７時から午後９時まで 発表者 ： 平　井　和　夫 テーマ ： 吾妻鏡と奥州平泉 10 発表者 ： 石 幡　　信 テーマ ：

平成30年度の４月から７月まで、月例会で紫凛会の皆さんが歴史講談『火水の舞・金色堂物語(会員の阿部朋已さん作)を、毎回二人で30分位発表する予定です。ご期待たいください。
４月　金色堂の建立:うすむらさき(岡村日出子) ／藤原基衡の企み:わかむらさき(佐藤いくみ)
５月　藤原基衡の葬儀:こむらさき(大沢斗志子) ／奥州合戦:こいむらさき(籏福晴子)
７月　中尊寺炎上・大水の舞:おおむらさき(小笠原悦子) ／北の方平氏の情念:和景紫(久慈和子)

☞ 樋爪館関係資料集（第７号）発行、頒布中

平成28年度中の月例発表会で使用した資料をもとに編纂した「樋爪館関係資料集 第７号」を頒布中です。例年、年度末近くに発行していましたが、本年度は助成金制度の関係で平成29年11月１日発行となりました。資料集編集委員会(平井和夫委員長(副会長))のご尽力に感謝しています。これまでで一番多い150頁ですが、協力金は据え置きの２千円(会員は１千円)です。月例会出席の際にお申し出ください。なお、都合で出席できず資料集をお求めになりたいいの方たいいの方は、携帯090-3124-3776（高橋）に、ご連絡ください。
なお、３号以降の残部若干ありますので、ご相談ください。

☞ 比爪館遺跡案内人部会の出前講座 依頼受付中

本年度は、赤石公民館の歴史講座３回シリーズや、赤石小学校の総合学習と紫波一中ゆうごうセミナーなどの現地案内と出前講座があり、遺跡案内人部会(佐藤雄一部会長(副会長))は大繁盛。開店休業状態から一気に大躍進でした。これからは、子ども会・老人クラブや自治会などの要請に対応して行きたいと考えています。
内容・時間など各団体等の希望に合わせて対応しますので、一週間前までに情報を、お寄せください。

１月２１日(日)に開催された紫波町平泉関連史跡連携協議会と当懇話会他４団体が共催した**「2018新春フォーラム『もう一つの平泉～比爪』」**が、関係団体会員や行政・議会関係など多数の方々が参加して開催されました。羽柴直人氏・八重樫忠郎氏・鈴木賢治氏お三方の鼎談のコーディネーターを当懇話会の高橋会長が務め、講評を平井副会長が担当しました。

パネリストの方から「比爪は国指定に相当する遺跡」の太鼓判をいただいたことや、町民の総意形成のため、共催各団体会員の思いを弛みなく発信し続ける必要性を共有できたことが、今回の大きな成果であったと思います。

盛岡タイムス　2018年（平成30年）1月23日　（火曜日）

『比爪館』に考古の機運

平泉新春フォーラム　国、県文化財指定を

2018平泉新春フォーラム「もう一つの平泉　比爪（ひづめ）」（主催・紫波町平泉関連史跡連携協議会、紫波郷土史同好会など）は21日、同町高水寺土手の日詰公民館ふれあいホールで開かれた。町の文化財（史蹟）に指定されている「比爪館（ひづめだて）跡」の県、国指定を目指し、機運醸成を図るため開催。近年の発掘調査を基に、文化財や史跡に詳しい研究者らが意見を交わした。参加した同町周辺約70人は、当時の街並みに思いをはせながら、国指定の必要性について理解を深めた。

「比爪館跡」は、同町南日詰の赤石小付近から五郎沼にかけての史跡。館跡の他、平泉町の遺跡で出土されたものと同様の青磁、白磁の輸入器、常滑（なめたけ）などの国産陶器が発掘されている。北上川に近い「大銀Ⅱ遺跡」からは、平泉町の柳ノ御所遺跡と同規模の塀跡が見つかっている。平安後期から藤原基衡の弟・清綱や、その子供の樋爪俊衡がこの地を治めていたことから、平泉と同じ規模の大きな街並みが赤石地区にあったと推測されている。

フォーラムの鼎談（ていだん）「『もう一つの平泉』国指定史跡をめざして」では、県埋蔵文化財センター主任文化財専門員の羽柴直人氏、平泉町まちづくり推進課の八重樫忠郎氏、紫波町教育委文化財専門員の鈴木賢治氏が、史跡について見解を述べ合った。

羽柴氏は、同跡と少し離れた北上川近くの「下川原遺跡」の配置が、奥州藤原氏時代に重要な拠点となっていた船着き場「川湊」（奥州市前沢区の「白鳥舘遺跡」内）と似ていることを指摘。「北上川の舟運路を利用した物流が盛んに行われていたのでは」と予想を立てていた。

八重樫氏は平泉町を例に、国指定になった際の制限とメリットを紹介。家の増改築や町並み形成に国の許可が要る反面、国指定が住民の誇りとなることを説明した。

3人は、比爪館跡内部の構造予想図や出土した資料などをスライドで紹介しながら「国指定にする価値のある史跡」と強調。国指定を目指したさらなる発掘調査の必要性を示した。参加者からは「地方創生を目指した行政の文化戦略として取り組むべき」との意見が出ていた。

比爪館跡の国指定に向けた課題などが示された鼎談

※　日詰公民館→古館公民館　なめとこ→とこなめ